

令和4年度ふれあいトーク議事録(9月27日)

日時 令和4年9月27日(火) 19:00～
 場所 碁石公民館
 出席者 21名
 市長、企画政策部長、総務部長、産業振興部長、市民部長、建設部長、教育次長、
 防災・危機管理監、消防監理監、地域振興課、地域担当職員
 内容 19:00～19:05 冒頭の説明等
 19:05～19:41 あいさつ、市政の概要について 市長説明
 19:41～19:43 碁石地区事業概要について 地域振興課説明
 19:43～20:22 意見交換
 20:22～20:28 氷見市芸術文化館(企画政策部長)、マイナンバーカード(市民部長、市長)について説明
 20:28～20:33 閉会あいさつ 市長、碁石地区自治振興委員長 山田委員長

質問の内容	回答
1 ・氷見高校の学級減について、市長自らが県に出向き、意見を述べられたことでしばらくは現状維持になるのではないかと期待していたが、残念だった。 ・コミュニティバスの取り組みについて、8月に国土交通省の表彰を受けてきた。昨年度あたりからバスの乗車率が2割減った。このまま乗車率が減っていくと、世話をしている人たちの生きがいなくなるといった懸念がある。今までのやり方を続けていくのではなく、デマンド型等新たなやり方や料金設定も含めて検討していきたい。 ・日本農業遺産に認定されたが、実際は氷見の定置網を目玉にしたものであり、漁業がメインになっているように見えるが、農業も原因の一端となっている。これを機に農業の取り組みについても考えていかなければいけないのではないかと。	【市長】 ・当初は1台目のバスしか市で補助していなかったが、2台目以降に関しても補助をするようにしたり、補助の限度額を上げたりしている。デマンド型は県内他市でも導入をしている事例もあり、地区で協議されたことに対して市としても最大限支援をしていきたい。 ・なぜ漁業が農業遺産なのかは漁業者からもよく出る質問だが、世界農業遺産を主管している団体では漁業も農業の一分野といったくりになっていることでご理解いただきたい。また、漁業だけが単独で農業遺産になったわけではなく、山から海までの自然の循環がないと魚が育たないということで、林業・農業・漁業が一つの循環として初めて氷見の定置網漁業が成り立っているというストーリーになっているため、農業もしっかりと今のスタイルを持続していく必要があるのではないかと考えている。
2 ・物価高騰に伴う生活者支援の水道料の減免について、7月の広報に載っていた。片倉地区の26戸の内、3戸は水道が入っていない。この3戸については申請が必要で、金額も少なくなるようなことであった。その3戸の方が7月は水不足であり、苦労があったと思う。高齢の世帯でもあり、せっかく減免するのであれば出来ることなら簡単な方法で、集落中平等になるような形で金額を渡してあげたい。	【釣賀建設部長】 水道料の減免については、請求をしないという形で利用者の手間が一切かからない形になっている。水道の入っていない所は申請をいただく形になっているが、これは実態として水道を利用している、していないということを氷見市として全体にどれだけいるのか把握出来ていない。申請については一度の提出で済むように出来る限り簡素にしたつもり。高齢の方の負担になるのは分かるが、国の補助を受けて行っているものであり省けない部分がある。添付できる領収書の期間の幅を広げる等の制度的な見直しも検討しているところである。希望されている皆平等にはなかなか出来ないが、出来る限り努力はしていくので、ぜひご活用いただきたい。
3 ・なぜ水道が入っていない所は申請が必要なのか。 ・物価高に伴う生活支援なのになぜ、水道が入っている所とそうでない所で一緒の金額を支払い出来ないのか。 ・水道がパンクしたら給水車が来る。山から水が出ない時にはどういった対策をしてくれるのか。 生活用水の設備の修繕に係る助成はあるのか。	【釣賀建設部長】【東軒企画政策部長】 ・市全体の話とは別として、水道というのは企業経営であり、その給水区域が水道事業のエリアという形になっている。そのエリア外となると別の事業の話になってくる。ただ、市全体の形で考えるとそもそも完全にフォローしていただく必要がある。その中で給水区域エリア外の世帯でどういう形手を差し伸べるかを考えた結果の今回の制度設計であるのでご理解いただきたいと思います。 ・断水の際の給水車について、水道は給水エリアの中で活動が基本となる。市全体でどういった方針を立ててといったコンセンサスが得られれば給水車を出すということはある。しかし現段階ではそのようなコンセンサスを形成するには至っていないのが現状であるため、今後は水道としてではなく市全体として対応策を検討していく必要がある。 ・地域振興課に生活用水に関しての整備の助成がありますのでご相談ください。(地域生活基盤整備支援事業について説明)
4 今年度野球場の整備が完了すると聞いているしているが、硬式野球には不適という内容になっている。氷見市においても硬式野球の出来る環境、グラウンドの拡充をお願いできないか。	【釣賀建設部長】 ネット等の安全対策の部分で硬式の用に供するには規模が小さいため。周囲に人を配置して硬式球が外に飛んで行っても大丈夫なような形で運用することはもしかしたら可能なのかもしれないが、今現在整備している中では難しいというのが正直なところ。硬式対応のグラウンドの整備については現状では難しい。